

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『トラック輸送イノベーションが解決する物流危機』

兵藤哲朗，根本敏則編著
成山堂書店発行
2024年3月／3,520円（税込）
所蔵箇所：信濃町

2024年4月からトラックなどのドライバーに対して時間外労働の上限規制と、これを踏まえた改善基準告示（自動車運転者の労働時間等の改善のための基準）改定による労働時間の規制が適用された。これにより今後「モノが運べなくなる」可能性が懸念されており、「物流の2024年問題」として大きく取り上げられている。

本書は、国土交通省・社会資本整備審議会・道路分科会・基本政策部会・物流小委員会および2021年6月に閣議決定された総合物流施策大綱（2021年度～2025年度）の検討会メンバーである編著者両名が「トラック輸送のイノベーション」に着目、これに関連する先端技術や適用可能性などについて紹介することを目的にしている。

物流事業者を支える道路施策の中でも特に有力な手段として、ダブル連結トラックの効果とその必要性、高速道路のサービスエリア（SA）・パーキングエリア（PA）における平日深夜帯の混雑緩和策などについて調査研究成果を取りまとめ、ドイツをはじめとした関連海外事例と合わせて考察と提言を行っている。（原）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『神戸駅史』

神戸駅編集・発行

1957年10月

所蔵箇所：上野（一般公開中）

2024年5月11日、大阪～神戸間の鉄道が開業して150年を迎えた。一昨年に開業150年を迎えた新橋～横浜間に次ぐ鉄道である。

本書は、その一方のターミナルである神戸駅が、開業80年を機にまとめた駅史である。構成は、本編、続編、年表からなっている。本編では、神戸駅の歴史として、初代駅の開業、東海道線と山陽線の接続に伴う駅舎新築を含む改良、そして現在のスタイルにつながる高架鉄道化などを中心に記述している。また続編では、刊行当時の駅の現状および駅を取り巻く環境をまとめている。

本書の特徴のひとつとして、駅そのものに並び、駅と社会とのかかわりにも重点を置いていることがあげられる。本書刊行時は、第2次世界大戦後の混乱期が一段落し、ようやく記録をまとめる余裕が出はじめたところに重なる。なお、資料室では各種の駅史を所蔵し、その一部を「資料室便り」で紹介しているが、本書を含むそれらに共通して、資料収集に苦勞した点が記されている。そこからは、定期的に駅史をまとめておくことの意義が読み取れる。（土方）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

